

# 城北



平成 30 年 7 月 1 日 現在	
総世帯数	3,610
総人口	7,774
男	3,693
女	4,081

## 城北の 石碑 松本深志高校 西穂高岳遭難碑

### 松本深志高校学年登山

昭和 42 年 (1967) 8 月 1 日午後 1 時 40 分、濃霧と電まじりの大粒の雨の中で閃光とともに雷鳴が轟き渡りました。「伏せろ、岩に隠れろ」引率教諭の悲鳴にも似た声が響きました。しかし、その時はすでに隊列の 11 人が登山道から跳ねとばされ、13 人が倒れていました。



山岳登山史上かつて例を見ない深志高校生の西穂高遭難は一瞬の出来事でした。

この日、高校 2 年生と引率教諭ら合わせて 46 人の二行は、西穂高岳の登頂に成功しましたが、正午過ぎに雨になったため急遽下山を始めました。やがて電を交えた大粒の雨になり、教諭は落雷の危険を感じながら避難の手段を考えました。しかし、吹きさらしの痩せ尾根では避難の場所はなく、ひたすら下山を急ぎました。

学校登山は、長野県内では明治時代から始まりましたが、深志高校では、県内の各高校、中学校に遅れて昭和 34 年からでした。そして、その日が運命の日となりました。当時は、携帯電話やスマホなどの連絡手段がなく、難を免れた教諭が麓の西穂山荘に駆け下り遭難の一報を伝えました。

一報を受けた西穂山荘では、従業員や居合わせた登山者それに大学診療所の医師らを救助活動に向かわせるとともに学校や警察などへの連絡に追われました。

一方、遭難の通報を受けた学校では、校長らが現地に向かうとともに、残った教諭が関係者への連絡や状況確認など受け入れ準備に追われました。

救助活動は、警察や自衛隊なども加わって夜を徹して行われ、自衛隊のヘリコプターで遺体は母校へ、負傷者は市内の病院に収容されました。遭難後、学校と生徒会では「学校葬」を行い、11 人の霊を悼みました。遺影を取り囲むように飾られた 1300 本の菊の花は、島内農協の役員が自家用に育てたものでした。

また、遭難の顛末をまとめるため「西穂遭難対策特別委員会」が組織され、遭難碑の建立を決めるとともに追悼文集、遭難調査報告書を編纂し、深志高校の学年登山は、これ以後、中止されました。翌年に校舎正面脇に建てられた遭難碑の銘板には、遭難した 11 人の名前とともに「業半ばにして落雷のため春秋に富む身を散らした。その霊の



西穂高岳落雷遭難事故調査報告書より

安らかなることを祈念する」と刻まれています。

引率教諭のひとりには「あの時何かもつと尽くせることがあつたのではないか」と胸の内を報告書で語っています。今年の 8 月 1 日は、遭難から 51 年目を迎えます。

## 出張ふれあい健康教室

笑顔あふれる(๑)

「ズントズンズントズンドコ蟻台!!」城北地区定番のズンドコ体操をひろばコーディネーターの村田さんのリードで元氣よくかけ声を合わせてリズムにのる参加者たち。

6 月 22 日蟻ヶ崎台公民館で 27 人が出席して「出張ふれあい健康教室」が開かれました。スタッフの塩沢さんの軽快なトークにのって椅子にすわったまま首、手足などをかかると動かし体だけでなく心もほぐし、笑顔があふ

最後はお茶を飲みながら語らう時間です。89 才の男性は「ふれ健」で町会の方と顔を合わせて話をするのを楽しみにしています。「お互いの安否確認だよ」と笑顔で話していました。介護の合間を縫って参加した人は、「良い気分転換になって楽しかったわ」と話していました。

盛りだくさんの内容の笑いとふれあいで蟻台の絆が深まる素敵な時間でした。



れました。

休憩をはさんでみんなで歌いましたが、男性陣が多く、美しいハーモニーの素敵な合唱になりました。

続いて 2 チームに分かれて 1m 四方のダンボール箱からたくさんの紐が 10cm ほど出ていて、引っ張ると短い紐や長い紐が出てきて、それぞれ一本ずつ紐を引き、これを競うゲームをしました。これが大盛り上がりで、引いた紐の長さで一喜一憂し、勝敗が決まると「バンザイ!!」の音が響き渡りました。



## 高齢者の拠り所

## なんでも相談「お茶会」

深志ヶ丘町会は閉じこもりがちな高齢者達が気楽に寄り合って話あえる集いを目指し、隔月の「お茶会」を町内公民館で開いてきました。

この6月25日、今回は高齢者とその家族が現在抱えている課題や疑問に慮るため、まず事前に各戸配布のアンケートを実施しました。

そして、断トツに希望の多かった介護保険制度の支援体制と認知症についてをテーマに「老後の準備なんでも相談会」と銘打ったお茶会で、30人の皆さんが包括支援センターの担当者から、制度のあらましと現状などについて説明を受けました。

### 高齢者の入居施設について

・介護保険で入所できる施設  
・有料老人ホーム

・養護老人ホームなどへの申請から認定手続き、入居条件・費用・設置場所と利用の現状について、資料をもとに説明がされました。

参加者からは「少ない年金生活者の選択できる施設が入居順番待ちの情勢となっていることに不安を覚える」「担当者の顔をみて電話しやすくなった」など切実な思いを語っていました。

### 認知症について

加齢による物忘れは程度の差こそあれ誰もが経験しますが、認知症は、全体を忘れ自覚に乏しい、判断実行や普段の生活に支障がでる、1〜2年で状況が変化する進行性、本人は否定したいなどで受診につながらず他人の指摘で受診した例も多いそうです。

また認知症の人へは、怒らない、急かさない、本人のペースなどへの対応の必要についても話されました。参加者からは「どんなとき、どこで認知症と判断するのか」などの質問もありました。

身近な課題とあって質問や意見のやりとりに、全員が真剣な面持ちで取り組んでいます。

## 歴史とロマン講座開講

松本平の歴史を知る「歴史とロマン講座」が、去年に続いて今年も松本市文化財審議委員の原明芳さんを講師に5月29日から始めました。

一回目の29日は松本平の古い寺院を考えると題して、内田の牛伏寺と波田の若澤寺について、遺跡の発掘や江戸時代の絵図を参考にその成り立ちや歴史などを学びました。

牛伏寺は、諏訪藩領だったため明治の廃仏毀釈を免れましたが、「信濃日光」と呼ばれた若澤寺は、松本藩領だったため廃仏毀釈によって今では基壇を残すだけになっています。

牛伏寺は鉢伏神社を祀る鉢伏山、若澤寺は白山社を祀る白山の中腹にあり、両山は「水分（みまくり）の山」として信仰を集め、鉢伏神社では現在も雨乞いの神事が行われています。

また、発掘調査の結果や堂平や元寺場などの地名が残るところから、かつては山頂近くにあったお堂が仏教の隆盛とともに山を下り現在の場所に移築されたということとです。

江戸時代の絵図によると現在の何倍もの敷地にいわゆる七堂伽藍が建っており、東の牛伏寺、西の若澤寺といわれ多くの善男善女の信仰を集めていたことを物語っています。

この講座は、6月29日と7月31日に開かれました。

## 月夜沢峠散策



▲乗鞍岳が見えました♪



▲先はまだ遠い……

▼まだ行ける!!



そば屋でひと息▶



◀きれいな花がたくさんありました

月夜沢峠のお花です▶

